TATAMI SCIENCE

健康・快適・安心の畳屋さん

KTT

畳表について一緒に考えてみましょうか。

畳表にはJAS（農林規格）があり、経糸によって区別され重量・色合いによりランク付される。また生産地によって、その特質を出し、高級品から普及品まで用途に応じ幅広く使用されている。

畳表を科学する。

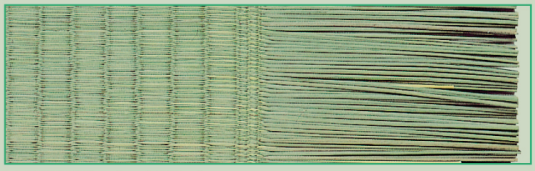
「和室と言えば畳！」でも畳を選ぶ時に材質を考えていますか？
畳の表面に張ってあるイグサにも色々な種類があるんですよ！

中継表
（なかつぎおもて）

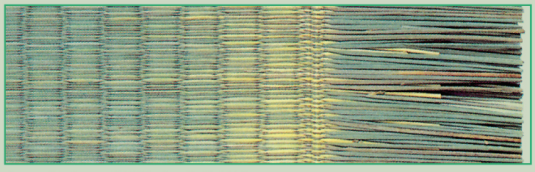
TV放映でおなじみの
手織り職人 寺岡 文子様の製品

2本のイグサの先端を中央で継ぎ合わせ、良い部分のみを使った織り方。通常の畳表は約4千本のイグサを使用するが、これは2万本以上使用する。手織りは最高級品で、価格は10万～20万円。

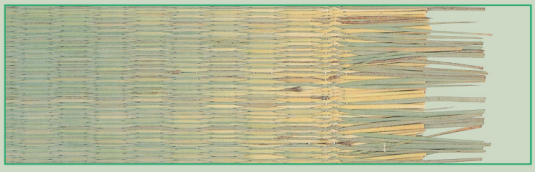
長く美しいイグサだけで作った最上級品



ひげが揃った上級品

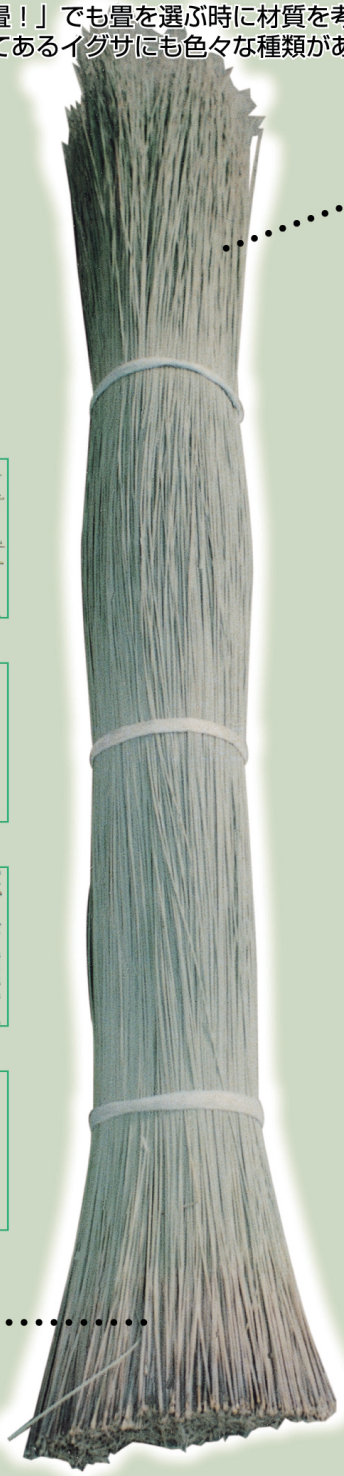


もっとも一般的な中級品



アパート・貸家などに使用される普及品

根本の部分は、茶色い皮のようなもの（袴と呼ばれている）に覆われている。畳表にするときは、これを取り除く。袴を取ったイグサは白っぽく、真ん中の部分に比べるとやや太い。畳表のひげで白いほうが根元、細くなっているほうが穂先。

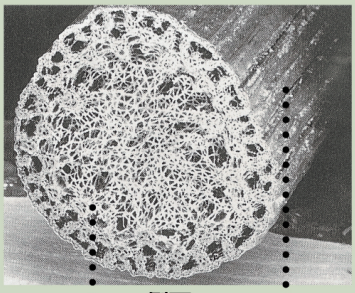


イグサの長さは100cmから150cm。もっと短いイグサを使った畳表もあるが、100cm以下では使用できない。一般的には、長いイグサを使ったものほど、よい畳表になる。真ん中の部分は太さが均一で色もよく、ここが長いとそれだけ美しい畳表ができる。

高級な畳表はひげが長くて美しい

長いイグサを使ったほど高級といわれるのは、いちばん質のよい部分を畳表に多く使えるから。ひげが長くてきれいなほど長いイグサを使っているという目安になります。

高い吸放湿性の謎はここにあります！



イグサの断面図

● 写真提供
日本女子大学
理学部
南澤 明子 先生

側面

イグサの表面には細かい縦のすじ（イ筋）がある。この筋と、イグサ1本1本の隙間や織の凹凸のせいで、肌にさらりとした感触になる。

断面

イグサの直径は約1.5mm。断面は肉眼でもスポンジ状なのがわかる。さらに電子顕微鏡で見ると細胞にも細かい穴があるのを確認できる。このため優れた調湿効果がある。又、有害物質であるNO_2を吸着し、分解します。

畳表を選ぶポイント！

1. **イグサの質（長さ・太さ・色調）**
茎に変色や傷などがなく太さや色がそろっているほか、一般的には長いものほど上級品とされる。又、泥染めに使われる染土が色を決める重要な要素となる。

2. **経糸の種類 及び 芯の数**
経糸は伸度が少なく、硬くて腰があり、湿気に強く、虫がつかないことが条件。マニラ麻・太麻、ちょ麻、黄麻、綿糸、化学糸などがある。中でもマニラ麻は、肉厚で腰があり、配（畳の目の山なりの部分）と配の境目をくっきりとつくれるため、高級品に用いられる。又、二本芯にしたものは超高級品。

3. **織り方**
織り方は一般的にひとつの配につき2本の経糸を通していく。糸と糸の間隔が均等なものが普通目織り。糸と隣の配の糸との間隔が狭い、目の詰まった織り方が諸目織り。又、ひとつの配に1本の糸を通す目積織りや、糸と糸との間隔が広い大目織りなどがある。